

特許昭60-223441

POWER SOURCE FOR PRIMARY AND SECONDARY BATTERY

PUB. NO.: 60-223441 [JP 60223441 A]

PUBLISHED: November 07, 1985 (19851107)

INVENTOR(s): ICHIKAWA MASAHIRO

APPLICANT(s): ICHIKAWA MASAHIRO [000000] (An Individual), JP (Japan)

APPL. NO.: 59-077880 [JP 5477880]

FILED: April 18, 1984 (19840418)

INTL CLASS: [4] H02J-007/00

JAPIO CLASS: 42.9 (ELECTRONICS -- Other)

BEST AVAILABLE COPY

④日本国特許庁 (JP)

①特許出願公開

④公開特許公報 (A) 昭60-223441

Simpl. Cl.

H 02 J 7/00

識別記号

序内整理番号

H-8123-5G

④公開 昭和60年(1985)11月7日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

発明の名称 一次電池と二次電池併用の電源装置

④特 願 昭59-77880

④出 願 昭59(1984)4月18日

発明者 市川 雅英 東京都墨田区本所1丁目13番11号
出願人 市川 雅英 東京都墨田区本所1丁目13番11号

BEST AVAILABLE COPY

目 次

発明の範囲

一次電池と二次電池併用の電源装置

発明の概要

本発明は、一次電池と二次電池に電気エネルギーとして充電し、蓄電した電気エネルギーを電気機器に、長期的に使用するための一次電池と二次電池併用の電源装置。

発明の詳細

本発明は、一次電池の蓄電作用を二次電池に電気エネルギーとして蓄電するため、充電された電気エネルギーを電気機器に、長期的に使用することを目的としたことにある。

また、本電池は電気エネルギーを充電するのに電源設備がある。この電源設備を導入して充電しなければならなかつたのである。これがまだどうかいることで一層にその不便を解決したのである。

これを電池によって解決するならば、第一図と第二図は、家庭の交流電源を電気エネルギーとして二次電池に充電をし、それを負荷に電気エネルギーとして供給したのである。

また、第三図は太陽電池の場合は光エネルギーを直流の電気エネルギーとして充電して、二ヶ電池に充電し、それを負荷に放電用として

使用したのである。

第三図は本発明を示した図で、一次電池の発電エネルギーを逆流防止ダイオードを通して二次電池に充電をし、それを負荷に放電用として放電したのである。

今回の実施例に用いた一次電池は、鉛酸電解液使用のアルミニウム電池である。(一次電池としては一般的に次のようものが知られている。) (1)亜鉛空気電池2アルミニウム空気電池3カルボ電池4一次電池の乾電池等)。

この一次電池の構成は、端子材にアルミニウム板を使用し、端子材にはカーボン棒を使用した、電解液には硫酸と硫酸を適当に混合し、それを水に導き使用したのである。起電圧は1セルヨリ1.35Vであるから、これを直列に接続し高電圧を得てカリニカ蓄電池や鉛蓄電池等の二次電池に電気エネルギーを充電し、放電しながら使用したのである。

このように一次電池と二ヶ電池を併用して使用するならば、負荷に対して非常に安定した電気エネルギーを供給ことができる。

これ充電された電気エネルギー源を次のような電気器具に使用すれば最大の作用効果が得られる。

例えば、移動機器や固定機器は具体的としてレジャー機器、キャンピングカー、開閉、屋外広告看板機、張り棒看板機、溝中海上地

手で使用する電気機器関係、電器用関係、その他電気製品。

切西の構成を説明

第一回は交流電源を直流電源に変換し二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

第二回は太陽電池から発生する直済の電気エネルギーを、二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

第三回は一次電池より発生する電気エネルギーを逆流防止ダイオードを通り、二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

特許出願人 市川 雄英

